

令和4年度 学校経営計画

1 学校教育目標

障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を養い、友愛の中に自己を実現し、社会的に自立する明るくたくましい人間を育成する。

〈校訓〉 ○仲よく楽しく学びましょう ○恐れずくじけず励みましょう ○明るく正しく生きましょう

2 学校の特徴

- ・聴覚に障害のある幼児児童生徒と軽度の知的障害のある高等部の生徒が、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立して社会参加することや、共に学び、共に生活して、地域社会で活躍することを目指して学んでいる。
- ・聴覚障害のある生徒を対象とした、幼稚部、小学部、中学部、高等部、高等部専攻科があり、幼稚部には0歳、1歳、2歳児のための乳幼児教室がある。また、軽度知的障害のある生徒を対象とした、高等部に福祉・サービス科を設置している。
- ・個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し、一人一人の教育的ニーズに応じた教育を行っている。
- ・コミュニケーション能力を養い、社会性や望ましい人間関係を育てるために、それぞれの学部が地元の保育園や学校と交流活動を行っている。
- ・聴覚障害教育センターとして、幼稚園・保育園・こども園、小・中・高等学校、特別支援学校に在籍する聴覚障害児及び卒業生を含む成人聴覚障害者を支援している。
- ・中学部・高等部の生徒全員が卓球部に所属し、北陸地区聾学校体育連盟・中学校体育連盟・高等学校体育連盟主催の各大会に参加している。

3 学校の現状と課題

ア 現状

- ・聴覚口話法を基本とし、個々の実態に応じた有効なコミュニケーション手段（手話、指文字、筆談等）を用いて、コミュニケーション能力の育成を図っている。
- ・医療体制の充実による障害の早期発見や地域の学校への進学等により、幼児児童生徒数が減少し、一人学級、少人数学級が多く、集団による学習活動が難しくなっている。
- ・障害の重度・重複化、多様化により、幼児児童生徒の個々の教育的ニーズに応じた教員の指導力の向上が求められる。
- ・聴覚障害生徒の高等部卒業後の進路選択として、就職だけでなく専攻科や大学への進学希望者が増えてきている。軽度知的障害生徒の就労支援を含め多様な進路希望に対応するために、個々に応じた進路指導の充実が求められる。
- ・医療的ケアの児童生徒が在籍しており、指導医、主治医、保護者、担任、養護教諭、看護師等が連携を密にし、安全な医療的ケアの実施に努めている。
- ・聴覚障害教育センターとして、地域の聴覚障害幼児児童生徒が在籍する学校への支援が求められており、聴覚障害教育における専門性の維持・向上が必要である。
- ・防災や感染症予防など、緊急時における校内の体制づくりに努め、危機管理に対する対応力を強化する必要がある。
- ・成人年齢が18歳に引き下げられたことにより、学んだ知識・技術の活用だけでなく、情報の取捨選択や判断力が求められる。また豊かな人間関係の構築や、自己肯定感を高め自ら行動する力も必要となる。

イ 課題

- ・自己肯定感を高めながら主体的に学んだり自己決定したりするための支援の在り方
- ・幼児児童生徒の緊急時における救急体制の整備と、対応訓練の充実
- ・学校課題研究の取組に関する各学部の成果と、今後の学校課題についての方針の検討

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画		
1	学習活動	教育課程 (教務部)	目標	○効果的な指導計画の作成・活用・評価のために、個別の教育支援計画、個別の指導計画、成績関係書類等の関連を整理し、作成に取り組む。
			計画	・法令等の根拠を参照しながら進める。 ・インターネットや市販本、他校等から情報を収集する。 ・各学部と意見交換し合意形成しながら様式や作業手順の検討を行う。
		教科指導 (幼稚部)	目標	○遊びを通して興味・関心を広げ、人と関わる力を高める支援の在り方を探る。
			計画	・キャリア教育の視点で遊びを捉え直し、将来のどのような姿につなげていくかを教員間で共通理解し支援を進める。 ・幼児の興味・関心が広がる活動や内容について検討し計画・設定する。 ・年長幼児が、キャリア・パスポートを活用しながら活動を思い出し、年少組幼児に遊び方を伝えたり遊んだりできるような環境を整える。
		教科指導 (小学部)	目標	○なりたい自分を目指して主体的に学び行動できる児童を育てる支援の在り方を探る。
			計画	・キャリア発達の視点で、児童一人一人の学ぶ力、関わる力、問題解決力、社会性の段階や課題を明らかにし、個に応じた指導・支援を行う。 ・児童が「なりたい自分」に近づいたり、好きなことを見付けたりできるように、具体的な目標を設定したり、自己を振り返ったりできるような取組を継続し、キャリア・パスポートを活用する。
教科指導 (中学部)	目標	○生徒が自分の力を生かして学び続けるための指導・支援の在り方を探る。		
	計画	・生徒が主体的に学び続けられるために、ロールモデルを見つけ、「なりたい自分」に近づくための目標設定や取組みができるような設定をする。 ・「なりたい自分」に近づくための目標設定や振り返りの機会をもち、目標達成までの取組の過程から自己の成長を実感できるように、キャリア・パスポートを活用する。		
教科指導 (高等部)	目標	○生徒が自己実現を目指し、自己肯定感を高めながら <u>主体的に学んだり、自己決定したりするための支援の工夫</u> に取り組む。		
	計画	・ <u>キャリア・パスポートを生徒が理解しやすいものに適宜変更するとともに生徒の自己評価について教員による聞き取りを実施</u> し、次の取組みへの意欲につながるよう支援する。 ・自己理解、人間関係、課題に対応する力、将来設計の領域について、 <u>どの場面で支援していくかを明確にし、生徒の変容等について共通理解を図り</u> 、支援に生かす。		
2	学校生活	生徒指導	目標	○幼児児童生徒の発達段階に応じた安全教育を推進し、交通安全及び防災・防犯に関わる指導の充実を図り、幼児児童生徒の対応力を高める。
			計画	・防犯マニュアルの見直しに伴い、防犯対策についての教員への周知を図り、幼児児童生徒への安全教育に生かすことができるようにする。 ・避難訓練の実施について、各学部の実態に応じた防災について検討したり、訓練後の反省を生かしたりしながら教員間で共通理解を図り、幼児児童生徒が臨機応変に対応できるように指導・支援をする。
保健	重点2	目標	○幼児児童生徒の <u>緊急時における救急体制の整備と、対応訓練の充実</u> に努める。	
		計画	・救急体制について、いつでもどんな場面でも対応できるように、 <u>年に3回の緊急対応訓練</u> を重ねる。新任職員のことを考慮し、第1回目は5月までに実施する。 ・保護者への連絡のタイミングや救急車の誘導の仕方、毛布等の設置等、 <u>昨年度の反省点について検討</u> しつつ、また、学部内や学部間でスムーズに連携を図ることができるような <u>緊急時対応カードやフローチャートの作成・設置等、救急体制を整備</u> する。	

3	進路支援	進路指導	目標	○生徒、保護者の進学・就労に向けての意識を高めるため、情報提供の場の設定や情報の発信を行い、進路選択の意識啓発を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・進学先や、就労状況、就業体験、アフターケア等についての情報をホームページや校内掲示により、わかりやすく発信する。 ・生徒自ら進路について考える機会を充実させるために、就業体験の振り返りや報告会を行う。 	
4	特別活動	特別活動	目標	○「さわやか運動」の取組をとおして、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を養う。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で「さわやか運動」の活動に主体的に取り組むことができるように、生徒会執行部が中心となり立案・実施できるよう支援する。 ・児童が他者とのよりよい関わりにつなげることができるように、児童会のあいさつ運動等の活動を充実させるよう働きかける。 	
	学校図書館	学校図書館	目標	○図書室の整備や図書室利用の機会の拡充を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・図書管理システムを活用して、蔵書管理の電子化を進める。 ・学校図書館司書の助言を基に、見やすく借りやすい図書の配置を行う。 ・貸出率が向上するよう、図書委員会で本の紹介や本に興味をもってもらえるような活動を企画する。 	
5	その他	PTA活動	目標	○PTA活動への理解を深め参加者を増やすために、情報収集や情報発信に努める。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の交流活動や教養講座の内容や期日について、アンケートを実施する。 ・PTAの活動報内容をホームページで発信する。
		教育相談	目標	○聴覚障害教育に関する情報の発信に努め、関係教職員への理解啓発を図る。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害教育に関する資料を整理し、閲覧できるようにする。 ・聴覚障害児担当教員に向けた研修や互見授業を行い、聴覚障害教育の理解を深めてもらう。
		研修 重点3	目標	○キャリア教育や授業実践に関するこれまでの取組について、研究大会の <u>授業研究や分科会を通して明らかになった成果や課題を、今後の学校課題を考える上での指針</u> とする。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸地区聾教育研究会研究大会（9月）を開催し、本校教員及び関係者に対して、<u>研究大会についてのアンケートを実施</u>する。 ・聞き取った内容をまとめて、研究大会の<u>成果と課題を明らかにする</u>。 ・研究大会の成果と課題を関係職員に周知し、<u>次年度の研究課題を考えるための指針</u>とする。
図書・情報	目標	○幼児児童生徒に応じたICT機器の活用を促進する。		
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部にICT教育推進リーダーを配置し、リーダー間で定期的な研修会を実施して、ICT機器活用のためのスキルアップを図る。 ・発達段階に応じたICT機器を活用した授業実践を行う。 ・実践で得た知識やスキルを全体で共有し、活用の幅を広げる。 		

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和4年度 富山聴覚総合支援学校アクションプラン（高等部） - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	生徒が自己実現を目指し、自己肯定感を高めながら主体的に学んだり、自己決定したりするための支援の工夫	
現 状	本校高等部の生徒は、聴覚障害を有する生徒と知的障害を有する生徒が在籍している。卒業後の進路について漠然と考えている生徒が多く、進路の実現のために具体的な目標を掲げ、目標に向けた自身の課題を明確にすることが難しい生徒が多い。そこで高等部では、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく生徒を育てるため、キャリア・パスポートを活用して、自己の課題を見つめ、解決していくよう取り組んでいる。行事や就業体験等の事前事後指導で、振り返りの機会を多く設定することで、自己理解を深め、進路選択や自己実現に生かしていく必要がある。	
達成目標	レイダーチャートを用いた生徒の自己評価に対する教員の聞き取りの回数	キャリア・パスポートを基にした事例検討等のグループでの話し合い回数
	年間3回	年間5回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が理解しやすいようレイダーチャートによる評価表を改善し、生徒自身の評価につなげる。また、生徒の自己評価について、教員による聞き取りを実施し、生徒がどのように考えて評価をしたのかを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 部会研究においてキャリア・パスポートを基に、生徒についての情報を共有するとともに、授業等での支援の方法について話し合う。 生徒が記入しやすいようなキャリア・パスポートになるよう様式や内容について検討する。 キャリア教育の4領域について、どの場面で支援していくかを明確にし、支援の方法や生徒の変容について共通理解を図る。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和4年度 富山聴覚総合支援学校アクションプラン（保健部） - 2 -		
重点項目	学校生活	
重点課題	緊急時における救急体制の整備及び対応訓練の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 各学部の幼児児童生徒の実態に応じて具体例を基に教員の対応力を高めるため、本校では学部ごとに緊急対応訓練を実施している。しかし、緊急時に使用予定の緊急対応カードについて、各学部で様式が異なりかつ煩雑であるため、緊急時に学部間でスムーズに連携を図ることができるような学校共通の緊急対応カードを整備する必要がある。 昨年度の緊急対応訓練の実施回数は、各学部1～2回であった。今年度は医療的ケアを必要とする児童生徒が4名在籍している。緊急対応カードの使用を含め、救急体制や緊急時に対応可能な環境を整備すると同時に、様々な場面を想定した訓練を実施し、訓練後の反省を生かすことで、救急体制の改善や教員の対応力の向上につなげる必要がある。 	
達成目標	① 緊急対応訓練の実施回数 ・教員の対応力の向上を図る	②R3年度の緊急対応訓練の反省内容の改善率 ・救急体制や環境を整備する
	各学部 年3回以上	90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の連絡体制を正確にかつ見やすく示した、学校共通の緊急対応カードを作成・配備する。 各学部の実態に応じ、対象の幼児児童生徒や事故の発生場所・時間等を変え、様々な場面を想定した訓練を年に3回以上実施する。 研修会等を通して、医療的ケアを受ける児童生徒の実態や、熱中症や頭部外傷等事故内容による初期対応の違いについて、教員への周知を図る。 他学部教員も訓練に加わることで、学部間の連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の反省を受け、連絡体制の検討、「たすけんと」の教室表記の統一、毛布等の救急用品の配備を行い、共通理解を図る。 医療的ケアを受ける児童生徒の個人情報について、教室における管理の在り方を検討する。 各学部の緊急対応訓練の反省を受け、次回の訓練までに改善を図る。また、改善内容を他学部の訓練で反映させることで共通理解を図り、学校全体のより良い救急体制や環境の整備につなげる。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	その他	
重点課題	学校課題研究の取組に関する情報発信及び意見集約～北聾研研究大会を通して～	
現 状	<p>聴覚障害児（者）を取り巻く環境は、医療の進歩による難聴の早期発見、インクルーシブ教育の構築、手話言語条例の制定等、大きく変化してきている。また、全国的に在籍数の減少、人工内耳装用児や重複障害児の増加、進路の多様化、知的障害のある生徒との共生等、各校の課題は多岐にわたっている。そのような中、北陸地区聾教育研究会（北聾研）での情報共有や意見集約は貴重な場となっている。今年度、本校は北聾研の事務局として3年目のまとめの年を迎え、研究大会を運営する。</p> <p>そこで、研修部では、キャリア教育や授業実践に関する本校のこれまでの取組について、研究大会の授業研究や分科会を通して各県の参加者や助言者から客観的な評価を得、明らかになった成果や課題を今後の学校課題を考える上での指針としていきたいと考えた。</p>	
達成目標	北聾研研究大会に関する情報収集及び情報発信	研究大会で得られた成果と課題を踏まえた学校課題及び学部課題の検討
	2回	2回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 研究大会についてのアンケート調査を北聾研関係者に行い、集約する。 研究大会に関する成果と課題を明らかにして、関係職員に周知する。（本校職員、北聾研加盟各校職員） 	<ul style="list-style-type: none"> 各学部の部会研究において、研究大会で得られた成果と課題を分析・整理し、各学部の課題解決に生かす。 研修部会や学校課題委員会において、研究大会及び各学部の成果と課題をまとめ、次年度以降の学校課題について検討する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)